

上早川地区 地域づくりプラン

保存版

～地域資源を活かした、生き生きとした住み良い上早川～

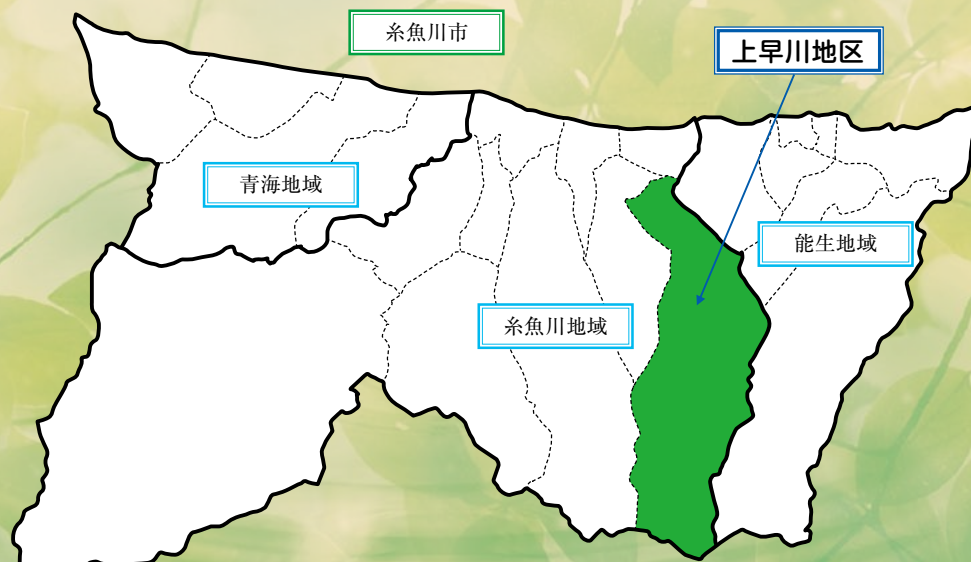


平成27年8月
上早川地域振興会

目次

1	地域づくりプラン策定の趣旨	 2
2	地域づくり活動の理念と計画期間	
3	上早川地区の現状と課題	
4	地域づくり活動の目標、方針及び方策（イメージ図）	 3
5	具体的な取組み（方策）	
	(1)農産物販売所強化事業	 4
	(2)憩いの場創設事業	
	(3)情報発信事業	 5
6	収支予算計画（5箇年）	 6
7	活動推進体制	
8	提案された他の活動内容	 7

上早川地区の位置

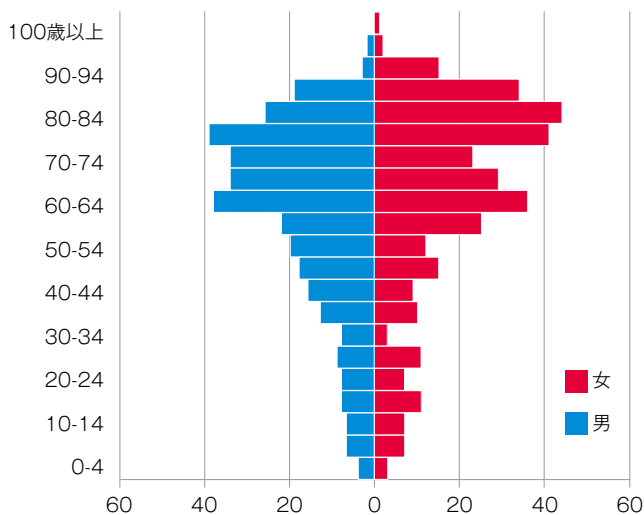




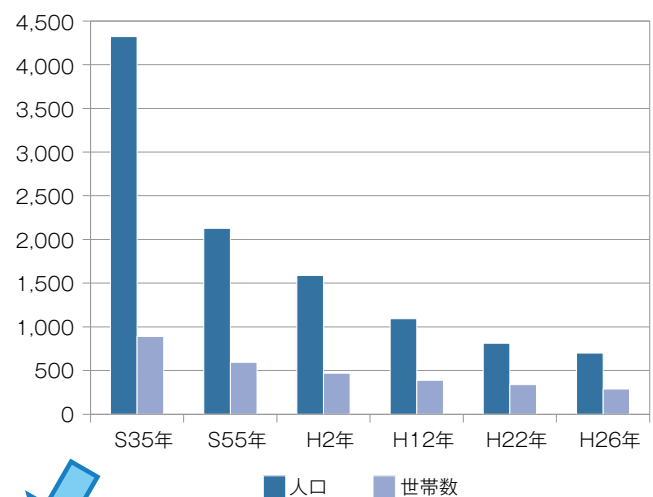
上早川地区の概要 (H27.4.1現在)

- ◆人口 680人
- ◆世帯数 285戸
- ◆高齢化率 50.88%
- ◆集落数 19
- ◆集落名 越、宮平、中野、中林、土塩、猿倉、吹原、寒谷、大平、岩倉、土倉、中川原新田、猪平、湯川内、三ツ屋、砂場、北山、平林、角間

上早川地区人口ピラミッドグラフ (H27.4.1現在)



上早川地区の人口と世帯数の推移 (各年10.1現在)



年	人口(人)	世帯数	世の中の主な出来事など
S 35(1960)	4,321	891	カラーテレビ放送開始、高度経済成長
S 55(1980)	2,127	593	王貞治・山口百恵引退、国民の9割が中流意識
H 2(1990)	1,588	469	ちびまる子ちゃん放送開始、バブル経済
H 12(2000)	1,092	387	介護保険法施行、IT革命、不平等社会
H 22(2010)	813	337	子ども手当支給、南アワールドカップ、バンクーバー冬季オリンピック
H 26(2014)	700	288	消費税が8%に増税、STAP細胞、流行語大賞「ダメよ〜ダメダメ」

III 地域づくりプラン策定の経過

- 平成25年 4月 地域プラン策定委員会発足
 11月 先進地視察研修(能生地域上南地区)
 平成27年 8月 地域づくりプラン完成
 ●役員会 3回開催
 ●策定委員会 19回開催





1 地域づくりプラン策定の趣旨

上早川地区は、少子高齢化が進み人口の減少が顕著となっています。この難題を克服し、住み慣れた上早川の地で、誇りを持って住み続けるためにはどうすればよいのか、住民主体による自立と協働の地域づくりを目指し、地域づくりプラン（以下「プラン」という。）の策定に取り組みました。

プランの策定は、上早川地域振興会を母体とした「上早川地域プラン策定委員会」を設立し、産業部会と生活部会の2つの専門部会によって2年5箇月、計19回の策定委員会を経て、上早川の進むべき道を検討してきました。



2 地域づくり活動の理念と計画期間

プランを実現するための活動は、これまでのような一部の役員に負担が集中するのではなく、地区住民全員が積極的に参加し、意欲的に取組み継続する、協働活動が重要となります。そのためには、プランを良く理解し、自分ができる分野を無理せず、楽しく協力して進めて行くことが必要となります。

計画期間は、平成27年度から平成31年度までとしました。



3 上早川地区の現状と課題

まずは、上早川地区の現状と課題について、策定委員会で検討を行いました。（⇒表1）

（表-1）

良いところ	改善したいところ
● 豊かな自然 四季の景色、焼山、鉾ヶ岳、温泉、早川、星空、ブナ埋没林 ● 農業が盛ん 稲作、園芸 ● おいしい食べ物 米、野菜、山菜、郷土料理、水 ● 観光施設 2つの温泉施設、焼山、とや展望台、ブナ埋没林、火打山川砂防公園、東側用水路提灯測量再現 ● 住民の人柄 子どもは素直で明るく、高齢者は豊富な知恵・経験・技術を持った人が多い	▼ 少子高齢化 人口減少、後継者不足、独居高齢者の増、介護問題、集落運営が困難 ▼ 雪対策 除雪、移動手段、買い物 ▼ 施設の活用 焼山の里ふれあいセンター、農村公園 ▼ 買い物、交通 商店が少ない、移動手段が少ない、家が点在している ▼ 住民の人柄 おとなしい人が多く、やる気のある人が少ない



4 地域づくり活動の目標、方針及び方策（イメージ図）

地区全体の現状と課題を把握した後、各部会ごとに目指すべき目標（方針（活動の方向性））を導き出しました。その目標を基に、上早川地区住民が一緒になって進んでいく方向を明確にするため、地域づくり活動の目標（将来像）を定めました。その後、目標を達成するための具体的な方策（活動内容）を提案し、その中から3つの優先して取組む活動を選定しました。

地域づくり活動の目標（将来像）

**地域資源を活かした、
生き活きとした
住み良い上早川**

【上早川地域づくりプランイメージ図】

◆地域づくりビジョン

地区の将来像「自然あふれる、
農業と観光の地区」

◆地域づくり活動の目標（将来像）

**「地域資源を活かした、
生き活きとした住み良い上早川」**

◆方針（活動の方向性）

産業系

農業資源を基礎にし、観光・自然を活用し若者の定着、人を呼び込む上早川にする。

生活系

豊かな自然と地区の人の知恵と経験を活かし、子供の声が聞こえる上早川にする。

◆方策（活動内容）

優先して取組む活動

～「焼山の里ふれあいセンター」の活用～
地区住民が収入を得て、生きがいを持って継続できる活動
(1)農産物販売所強化事業
(2)憩いの場創設事業
(3)情報発信事業

中・長期的に取組む活動

- (1)伝統文化体験事業
- (2)アウトドア体験事業
- (3)移住体験事業
- (4)星空観察スポット事業
- (5)おたすけ仲介所事業 等

5 具体的な取組み（方策）

上早川地区の恵まれた地域資源を活かし、そこに住む人が生きがいを持って生活ができる、住みやすい上早川を目指すため、多くの具体的な方策（活動内容）の提案がありました。その中から、「できること」「やるべきこと（長期的・短期的）」に視点を置き、採点方式により合意形成を図り、優先して取組む3つの活動を選定しました。

そのうちの2つの活動は、「焼山の里ふれあいセンター」の有効活用に取り組み、地区住民が収入を得ることによって生きがいを持って継続的に活動を行い、交流人口の拡大と地区の活性化を目指しています。





① 農作物販売所強化事業（実施場所／焼山の里ふれあいセンター）

『農業生産力の強化と、
山菜や雪室野菜等の活用により、農産物販売所を充実させる』

◆現状

- 常時安定して販売できる農作物が無い。
- 各農家の農作物を集める体制が無い。
- 土日営業のため、平日の温泉客が利用できない。

◆達成したい目標（将来像）

- 地区住民が収入を得て、生産拡大と活気のある直売所を運営したい。



◆活動内容

- 既存の出荷者を軸に生産者を拡大させ、出荷量を増やす。
- 生産品目を選定し、売れ筋を集中的に生産販売する（米、野菜、山菜、雪室野菜、山菜加工品等）。
- 農作物の集配方法を確立する。

- 平日営業や温泉で朝市を行う等、営業日時や場所を再検討する。
- 安定した収益が確保できるまでは、生産者が販売員を行う。



◆活動を実施する人、団体

- 農産物生産者
- 東山ファーム…生産
- 焼肉ゆがわら…加工
- 笹倉温泉、焼山温泉
- JAひすい営農部
- 県糸魚川農業普及指導センター
- 市農業経営支援センター

② 憩いの場創設事業（実施場所／焼山の里ふれあいセンター）

『「和」やかに「話」ができ、人の「輪」が広がる場所をつくる』

◆現状

- 高齢者が集まる場所（こと）が無くなった。
- 焼山の里ふれあいセンターの来客者のニーズ（昼食、レシピ、観光情報、予約販売等）に応えきれていない。

◆達成したい目標（将来像）

- 人、物及び情報が集まる場所ができている（誰でも気軽に立ち寄り、軽食をしながら情報交換ができるサロンのような場所）。
- イベント開催からステップアップし、将来的には地元食材を使った飲食店営業をしたい。



◆活動内容

- 四季に応じたイベントを開催する。
- 地元でとれた野菜や山菜、郷土料理を使ったイベントを開催する。
- 人の動きが感じられたり、人の注目を集めるような飾り付けを行う。
「春」 山菜祭り（雛飾り、こいのぼり）
「夏」 かかし祭り、流しそうめん（七夕飾り）
「秋」 収穫祭、そば&ライスボール祭り（菊展示）
「冬」 もちつき（イルミネーション、まゆ玉飾り、門松飾り）
- 仲間づくり（ネットワークづくり）
- 温泉との連携強化（伝統料理の提供等）

◆活動を実施する人、団体

- かつかあのかい
- 食生活改善推進委員
- あすなろ会
- あじさいの会
- ふんごむ会
- 笹倉温泉、焼山温泉
- 木島組（農家レストラン）



③ 情報発信事業

『地区の資源や取組みを地区内外に情報発信する』

◆現状

- 地区内の情報が収集されていない。
- 地元住民でも知らないことが沢山ある。
- 地区内に観光案内看板が少ない。

◆達成したい目標（将来像）

- 地区住民参加型の広報機関が組織され、地区の情報を地区内外に継続かつ定期的に発信したい。

◆活動内容

- 児童から高齢者まで幅広く情報収集員を確保すると共に、アンケートやインタビュー等により、様々な情報を収集する。
- 月1回位のペースで情報紙を発行したい。



◆活動を実施する人、団体

- 地区住民全員
- 集落支援員
- 民生委員、児童委員
- 上早川地区公民館
- 笹倉温泉、焼山温泉





6 収支予算計画(5箇年)

各事業の収入に加え、資源物回収を地区全体で取組み、自主財源を確保します。市の地域づくり活動支援事業補助金が5年間で終了することから、個々の事業が独立採算を目指して活動して行くことが必要となります。



【収入】

(単位:千円)

費 目	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	合 計
地域づくり活動支援事業補助金	464	464	464	464	464	2,320
農作物販売所強化事業	2,000	4,000	6,000	8,000	10,000	30,000
憩いの場創設事業	120	240	360	480	600	1,800
情報発信事業	20	30	30	30	30	140
資源物回収事業	30	30	30	30	30	150
振興会補助金	30	—	—	—	—	30
合 計	2,664	4,764	6,884	9,004	11,124	34,440

【支出】

(単位:千円)

費 目	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	合 計
農作物販売所強化事業	2,364	4,320	6,435	8,280	10,295	31,694
憩いの場創設事業	230	284	375	454	550	1,893
情報発信事業	70	160	74	270	279	853
合 計	2,664	4,764	6,884	9,004	11,124	34,440

7 活動推進体制





8 提案された他の活動内容

活動目標	番号	活動案	現状や問題点	具体的な内容 (地域の関わり)	実施するための課題
地域の食資源を活用し、生産・加工・販売等により人を呼び込む活動(誘客)	1	未利用地での農作物の栽培(耕作放棄地、農村公園、旧中早川小グラウンド)	管理不全の農地や施設が多くある。	①果物を生産してジェラートやジャム等に加工する。なたねを生産してなたね油を作る。収穫時にイベントを開催する。 ②週数回、車で巡回し野菜を集め、都市部の希望者に配送する。ネットでの宣伝のみ。初めは期待しない。注目が入りはじめたら、少しずつ集配を増やす。 ③貸農園を行う。	耕作地の整備、加工施設の整備、農作物の生産及び集配体制の整備、販路の構築、貸農園のシステム構築
	2	農作物加工場の整備(焼山の里ふれあいセンター)	残った夏野菜等を塩蔵して保存する加工施設が無い。	加工する農作物を生産する。加工体験させ、交流人口の拡大を図る。	施設整備、農作物の生産及び集配体制の整備、販路の構築
地域の人材や観光資源を活用し、体験メニュー等により人を呼び込む活動(誘客、子どもの育成)	3	伝統文化体験施設の整備	色々な匠・先生はいるが、教える場所がなく、伝承されてきた技術が途絶えてしまう。	味噌づくり、わら細工、竹細工、菅細工、農業体験、養蜂等の体験教室を実施する。技術者の名簿作成。継承者の発掘。ビデオ等の記録に残す。	匠・先生の確保、温泉との連携
	4	アウトドア体験施設の整備(焼山の里ふれあいセンター)	年間を通じて、運動したり遊べる場所が無い。	①クライミング(ボルダリング)教室を実施する。 ②焼山の里ふれあいセンターに釣り堀を作り、焼いて食べられるようにする。 ③雪上運動会を開催する。	施設整備、スタッフと安全の確保
	5	星空観察スポットの整備	星空がとても綺麗なものの知名度がない。	①星空(星座)勉強会を実施する。 ②温泉宿泊者に星空観察会を実施する。 ③関連グッズを販売する。	スタッフの確保、温泉との連携
	6	早川の雑木林の活用	河原に雑木が生え、景観が悪い。災害の元になりかねない。釣り人が川に入る道が少ない。	定期的に河原の雑木伐採や草刈りを行う。雑木等を使った商品(アクセサリ、薪、炭等)を開発する。	伐採・開発の人材確保、機械等(チェーンソー、トラック等)の確保
地域の空き家や空き地を活用し、田舎暮らし体験により人を呼び込む活動(移住定住)	7	移住体験施設の整備	空家、耕作放棄地が多く、増加の一途。一方都市部では、田舎での暮らしに価値をおく考えが少しずつ増えている。	①1週間、1か月、1年間といった単位で10代20代の独身者や若い家族に住んでもらい、よければ定住してもらう。家賃は無料とする。 ②インターネット、田舎暮らし系雑誌、その他若い世代が触れるであろうメディアで発信。 ③地域・集落のルールをあらかじめ整理し、そのルールを受け入れてくれた人を対象とする。	①基本無料で家、田畑、土地を貸せれるところを探す必要あり。 ②ネット系の情報発信 ③受け入れのルール作りなど、集落単位(できれば全世帯の理解)で受け入れてくれる集落を探す必要あり。
地域の人材を活用し、軽微な困りごとを地域全体で効率良く助ける活動	8	おたすけ仲介所の設置	ちょっとした困りごと(移動、買い物、除雪等)を地域内で解決できる仲介所(紹介所)がほしい。	地域の人の中でそれぞれできる人材や企業をリスト化し、必要な人または団体に紹介する。	仲介所を運営する資金や人材(企業)の確保